学番　　名前

２００７年度前期　農村計画学　試験問題（担当：星野　敏）

以下の設問の中から，４つを選んで解答しなさい。（選んだ番号に○を付けること）

1.　農村計画が社会的技術であるということについて説明をせよ。

2.　自治体の実務担当者は，将来ビジョン（構想）の策定を最も困難な作業の一つに挙げているが，その理由を推察せよ。

ビジョンの定義があいまいであり、スローガンのようなものから具体的なものまで幅があること、各農村の現状は厳しく、明るい夢のあるビジョンを描くのが大変であること、ビジョンを策定したことにおける責任の所在があいまいである、すなわち誰が責任をとることになるのか分からないことがあげられる。

15

15
20－α
20－α
75　20　－5
70

3.　「参加型計画手法」について知るところを記せ。

住民が主体となる組織をつくり、行政が補助にまわるような地域計画を立てる手法である。

利点としては、おおぜい20人までの小組織で、対面接触による確かなコミュニケーションがとれることである。これにより、行政と住民とのビジョンの違いも明確化し、整理できる。

又、その場として地域社会の住民どうしの関係がそのまま持ちこまれるような、あるいは何かが発言しにくい場を作らないことが重要となる。そして、当然住民自治が育れるような又は、フォローできるような計画でなくてはならない。

そのためには、ファシリテーターは、専門的な知識をもっていることが必要であり、その上、住民が建設的な結果にたどりつくよう、意識的に誘導しなければならない。その場その場の臨機応変な判断が不可欠になってくる。

20－α

2010/07/22 10:54:16 - a0067719